

年間第七主日

福音朗読 ルカ 6・27-38

2022.2.20

カトリック高円寺教会

ジョン・ジュン神父（クラレチアン宣教会）

皆さんはこのような経験がありませんか？ 昔からの親友が突然に別人のようになり、一切連絡して来なくなった。原因は分からない。偶然に出会ったとしても話もしない。だんだん二人の関係が知らない人同士になってしまう。最悪な場合は、外面から見るとなんともないように感じますが、実は心の中で恨みを抱いている可能性もありますよね。親友から敵になってしまい、特に夫婦の間でもこのような状況が存在するのかもしれない。ほとんどの人が推測し合います。これが暴力的な傾向の始まりなのかもしれません。

生活の中でわたしたちは、どのように嫌いな人とつきあうか、という難題に直面します。

憎しみは人の心に傷跡を残します。傷が治らないと、人は弱くなってしまいます。死ぬまで傷が伴います。ですから、小さい頃の家庭や、恋愛、結婚から負った傷を癒されなかったことで、生活の中で怒りやすかったり、嫉妬したり、憎んだり等が大きな問題だと思えます。

イエス様が言った通り” 敵を愛し、あなたがたを憎む者に親切にしてください。悪口を言うものに祝福を祈り、あなたがたを侮辱する者のために祈りなさい”、実際に行うことがとても難しいだと思えます。しかし、ここで言いたいことは、相手を赦すことが必要です。相手が赦される時、わたしたち自身の傷も癒されることとなります。人を大切にすることで、自分も大切にされます。もし、どうしても相手のことを赦すことができない場合は、まず、相手のために祝福して祈りましょう。

自分と仲良くなれば、他人とも仲良くなることができます。まず、自分の心を強くすることを学ぶことが重要だと思えます。世の中に完璧な人間は存在しません。日々の生活の中で成長することがとても大切だと思えます。

今はどこでも、よく免疫力の話をしていますよね。

ここで、人間関係の免疫力にも注目して欲しいです。

もし、わたしたちが心の中で愛を抱き、自信を持ち、優しさと勇気を持っているなら、
きっと人間関係も順調にいきます。

ですから、このミサで、皆さんと共に、わたしたち自身の信仰と勇気と人間関係に強
くなるように祈りましょう。